渋谷区立原宿外苑中学校　　令和６年１月号（１月９日発行）

学　校　だ　よ　り

https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij

各新聞社の元日の社説から「２０２４年の学校教育」を展望する

校 長　駒 﨑 彰 一

年末から３年生の高校入試に向けた面接練習を実施しています。この練習の中で、毎年、全員に新聞についての質問をしています。今年も８割を超える生徒から「新聞は読まない、ニュースはネットやテレビで・・・」という回答がありました。一般社団法人「日本新聞協会」によると、新聞発行部数に関する統計（https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php ）は、急激に減少を続けています。２０２３年の１世帯あたりの購読部数は、数値上半分の世帯で新聞を購読していないことになる「０．５」を切って「０．４９」となりました。インターネットがスマホによって個人にまで普及した現在では「情報はタダ（０円）」で入手できるようになり、確実に「新聞離れ」が今後も進行していくことが時代の流れとして考えられます。

インターネットには、縦横無尽な情報が溢れており「ノイズ過多」であると言われています。このような状況下では、特定の情報だけが大きく見え、別の情報が見えなくなる「プリズム効果」があり、自分の考えに近いものばかりにフォーカスがあたり、逆に関心がない分野については「視野」が狭くなってしまう傾向があるそうです。また、最近では過去の閲覧歴や検索歴に合わせて、画面に表示される内容が変わってくる仕組みになっており、入手する情報が「偏る」危険性が高いと言われています。

このように捉えると、インターネット上の情報の選別には、情報を見極める知識とスキルが問われるため、インターネットによる情報収集は「上級者のメディア」であると考えることができます。その点、新聞は世の中を知るための「基本ツール」であると言われています。一面から順にめくっていけば、政治、経済、国際情勢、文化やスポーツ、国内・地域情報と世の中の動き全体を短時間で俯瞰できるつくりになっています。この「一覧性」は新聞の最大のメリットです。また、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての「事実を知る」機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があります。（このため新聞は複数紙読むと良いそうです。）このように捉えると「若者」はインターネットより新聞で「情報収集」する力を鍛える必要があるのではないでしょうか。

１5年程前に上司（当時K区教育長）から、新聞には「様々な課題を乗り越えるヒントがある」と読むことを勧められるとともに、特に、元日の全国5紙の「社説」について、「深読み」することを勧められ、それ以来、年始の恒例の取組となっています。「社説」は、政治・経済・社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「現時点」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものです。新年元日、各新聞社の「社説」を深読みすることで、2024年の「学校教育」について考えていきたいと思います。

日本経済新聞では「地球規模の課題解決や紛争終結に対話の力を磨きたい」と題して、「草の根のレベルでの対話を増やしていく必要がある」とまとめています。「話し合いによって複雑な問題を解決できないことはよくあるが、たいていは私たちの話し方と聞き方が原因だ」 アパルトヘイト（人種隔離）政策をとった南アフリカで民族和解を進めた紛争解決の専門家のアダム・カヘン氏は著書「それでも、対話をはじめよう」（小田理一郎訳、英治出版）でこう指摘する。難題解決には「よりオープンな話し方と聞き方を学ぶ必要がある」という。今年は国家、企業、個人の各レベルで対話を増やす年にしたい。銃や暴力ではなく話し合いで物事を解決する力を磨きたいとしています。

日本の学校で続けている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善。この学びを実践していて重要である感じることは、やはり「話し方」と「聞き方」・・・改めて「対話」について深く考えさせられました。社会に出て課題解決するために「対話」は最強のツールになるはずです。アダム・カヘン氏の著書「それでも、対話をはじめよ

う」 Solving Tough Problems ：An Open Way of Talking, Listening, and Creating New 多くのヒントがあります。

産経新聞では「内向き日本では中国が嗤（わら）う」と題して、「今年は国際政治上の暴風圏に突入する年だと覚悟したほうがいい。」とまとめ、この解決のためには「外向き」な対話が必要であるとしています。

確実に国際社会（地球規模）の課題に「対話」を広げることが必要になってきています。中学校でも「教科書」の学びだけでなく、世界（世の中）に視野を広げた「外向き」の学び（対話）をデザインしていきたいと思います。

朝日新聞では、「紛争多発の時代に　暴力を許さぬ　関心と関与を」と題して、ウクライナ、そしてガザの戦争から、くみ取るべき教訓が、少なくとも二つある。ひとつは、ひとたび戦争の火ぶたが切られれば誰にも止めがたくなる厳しい現実だ。当事者も攻撃を止める機を見失う。停戦への討議の場となるべき国連は、常任理事国の対立で機能不全に陥ったまま。それでもいま国連を見限る余裕は人類社会にはない。国連は人類を天国に連れて行く機関ではなく、地獄に落ちるのを防ぐ機関だ。事務総長を務めたハマーショルドの言葉だ。もう一つの教訓は、戦争には憎悪と不信の蓄積という土壌や予兆があることだとして、「見過ごされたり、軽んじられたりしている理不尽はないか。争いの芽を摘む関心と関与を忘れぬ年としたい。」とまとめています。

毎日新聞では、「二つの戦争と世界　人類の危機克服に英知を」と題して、国際社会に求められているのは一人でも多くの命を救うための迅速な行動である。今こそ、国家中心から人間中心の視座に転換しなければならない。すべての人の権利の保護をうたった 75 年前の世界人権宣言の精神に立ち返る時であるとまとめ、「人類の危機は、人間性の強靭さが試される審判の時でもある。争いを話し合いで解決する忍耐強さと、他者との共生の道を模索する英知が求められている。」としています。

ウクライナとガザの戦争について、日本から何ができるのか？ 「争いの芽を摘む関心と関与」「人間性の強靭さ」「争いを対話で解決する忍耐強さ」「共生の道を模索する英知」 学校で共に考えることのできる内容であり、今後の教育のキーワードになるのではないでしょうか。

読売新聞では「磁力と発信力を向上させたい　平和、自由、人道で新時代開け」として、他者と同じ立場で同じ感情を抱く心の作用は、共通感覚（コモン・センス）と呼ばれ、これがあればこそ人間社会が成り立つ。人道、平和、自由を求める共通感覚は、人類が結束して進むための原点といえる。その共通感覚を出発点にすれば、人々が一致して困難に立ち向かうことができるに違いないとまとめ、日本が、「平和、自由、人道」で注目を集める「磁力」や「発信力」を駆使して、国際世論形成の先頭に立つべきだとしています。さらに、イノベーション（技術革新）力の低下に焦って「デジタル敗戦を繰り返すな」と、遮二無二デジタル化を急ぐ姿勢は、危うさを感じさせる。AIに頼ると「考える」力も衰える。考えることは人間存在の基本である。人間の尊厳に関わる重大な問題だとしています。

最後に関東地方のブロック紙ではありますが、東京新聞では、「年のはじめに考える　贈り物でなく預かり物」と題して、「地球は先祖からの贈り物ではない。子孫からの預かり物だ」とは、アメリカ先住民の言い伝えだとか。何とも耳に痛い言葉です。本来は預かり物なのに、まるで貰った物のように雑に扱ってきた結果の異変顕現。できるだけ預かった時の状態で子孫に手渡すのが筋ですが、今のままでは、そうできるか、かなりあやしい。「今」の世代が欲望を満たし、便利さを享受するために、病んだ地球を押しつけられることになるのは「未来」の世代で、「今」の世代がコストを最小化、利益を最大化できる代わりに、「未来」の世代が損害や賠償に苦しむ。子孫の視点に立って考えるなら、こんな理不尽な話はありませんとまとめています。

共通感覚（コモン・センス）「目的を共有するということ」と捉えることができるのかもしれません。

今こそ「平和、自由、人道」「AI活用」「未来社会」等について、求める共通感覚（コモン・センス）を結束する必要のある時期が到来しています。真剣に「考える」こと、「人間の尊厳」にかかわる課題となっていくのではないでしょうか。

「対話すること、そして考えること」 これからの学校教育での「基本」となることです。
2024年も「対話して」「考えて」・・・試行錯誤しながら学びを深めていきたいと思います！

台湾中学生との国際交流

代々木にある「さくら国際高校」の企画で、台湾の南榮國民中学校 URL: https://www.nzjh.ptc.edu.tw の生徒が1日体験入学に来校。3 校時に生徒会主催「歓迎会」そして授業の見学、4 校時には英語の授業に参加、さらに、給食（この日のメニューは、中国料理。味噌ラーメンとジャンボ餃子）を体験しました。 文化の違いを直接感じることのできる交流となりました。

車いすバスケットボール体験

東京恵比寿ロータリークラブ http://ebisurc.org/ による企画で実現しました。シドニーパラリンピック2000大会で男子車いすバスケットボール競技日本代表チームのキャプテンを務めた 根木 慎志 さんをゲストに迎え、実演と講演をいただき、代表生徒や教員チームによる体験ゲームも行われました。

「障害は社会にある」というお話が印象的でした。

越前和紙 紙すき体験

福井県の文化を広めようという有志の方々の企画により、昨年度に引き続き実施することができました。日本の伝統文化である「越前和紙」。今年も 増田 頼保 氏をゲスト・ティチャーとして迎え、単なる紙すきだけではなく、様々な素材が準備され、イマジネーションをふくらませた「アートな紙すき」となりました。

AR・VR・オンラインを使った「キャリア」について考える授業（1 年生）

経済産業省教育産業室「探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金」事業（探究的な学び支援補助金 2023）により実現しました。この補助金により、株式会社 SunReality が開発した「デジ探360」https://sunreality.jp/dejitan360/ というテクノロジーを活用した探究型キャリア教育。360度バーチャル空間での職場体験です。区内の広尾中学校・笹塚中学校と3校での同時オンライン授業を展開、3 校での対話型の授業となりました。都内のベンチャー企業のオフィスを体験した後に、なんと・・・・明治神宮の本殿を仮想空間で体験して、オンラインで神職からのお話をいただきました。

東京マラソン体験プログラム「ミニ東京マラソン」（2 年生）

一般財団法人 東京マラソン財団 との協働で実現しました。2年生が体育科（長距離走）の授業として実施。東京マラソンのコンセプトである「走る喜び（ランナー）、支える誇り（ボランティア）、応援する楽しみ(観戦者)」に沿った東京マラソンの疑似体験を通じて、スポーツの様々な楽しみ方や魅力を伝える特別授業です。元陸上競技長距離選手でシドニー・アテネオリンピック日本代表の 大島 めぐみ さんから長距離走の基本を指導していただき、「ランナー・ボランティア・観戦者」として「喜び・楽しみ・誇り」を体感しました。

フルマラソン42.195kmリレー

陸上競技部が生徒朝礼で全校生徒に呼びかけ、放課後に有志生徒による トラック1周（150m）をリレー形式でつなぎフルマラソン 42.195km（150m×281週+45m） の世界記録に挑戦しようというプロジェクトを展開しました。「ミニ東京マラソン」特別授業の4日後に開催。2 チームを編成して、2 チームとも世界記録より速い結果となりました。　　原宿外苑中学校公式記録：1 時間 57 分 29 秒　1 時間 57 分 33 秒

表 彰

○ バスケットボール部　男 子　　渋谷区中学校バスケットボール新人大会 準優勝
優秀選手賞　武 藤　琉 生
第 21 ブロック バスケットボール新人大会 3 位

女 子　　渋谷区中学校バスケットボール新人大会 準優勝
優秀選手賞　眞 田　旦 子
第 21 ブロック バスケットボール新人大会 優勝（都大会進出）

今月の予定

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	元日					
7	8	9	10	11	12	13
冬季休業日(終)	成人の日	全校集会		安全指導		
14	15	16	17	18	19	20
	生徒朝礼	避難訓練		研究発表会	なみき祭終（展示）	なみき祭終（展示）
21	22	23	24	25	26	27
	TLD		スキー移動教室(始)		スキー移動教室(終)	
28	29	30	31			
	専門委員会		職員会議研修会			

来月の予定

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
	中央委員会		職員会議研修会	安全指導		
11	12	13	14	15	16	17
建国記念の日	振替休日	避難訓練	渋中研研究発表TLD			土曜授業新入生保護者説明会
18	19	20	21	22	23	24
	生徒朝礼TLD			後期期末(始)	天皇誕生日	
25	26	27	28	29		
		後期期末(終)	職員会議研修会			